

**馬とのふれあい活動事業における**  
**新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン**

**【基本的方針】**

本ガイドラインは参加者、関係者等馬とのふれあい活動に関わる者の生命と健康を最優先に細心の注意を払い、安全に運営・活動が行えるようにするものです。活動の実施に際しての新型コロナウイルス感染症への感染を防止するための方策については、必ずしも十分な科学的な知見が集積されている訳ではありません。このため、本ガイドラインは、現段階で得られている知見等に基づき作成しています。今後の知見の集積及び各地域の感染状況を踏まえて、逐次見直すことがあり得ることに御留意をお願いします。

馬とのふれあい活動等のイベント行うにあたっては、実施する施設のある都道府県の方針に従うことが大前提であり、実施の判断に迷われた際は、施設が所在する都道府県の衛生部局等への御相談をお願いします。

**【ふれあい活動等開催時の感染防止策】**

感染防止のため自らが実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理し、各事項について、参加者を含む関係者全員が感染防止のために取り組める体制を作ります。これを遵守できない参加者には、他の参加者の安全を確保する等の観点から、活動への参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあることを事前に周知しておきます。

**(1) 主催が参加者に求める感染防止のための措置**

- ① 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせてもらいます。
  - ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・のどの痛みなどの症状がある場合）
  - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
  - ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ② 活動中は以下のことを守ってもらいます。
  - ア 活動中はマスクを着用すること。
  - イ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒をすること。
  - ウ 他の参加者等との距離（2 mを目安に最低 1 m）を確保すること。
  - エ 活動中に大きな声で会話等をしないこと。
  - オ 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守および指示に従うこと。
  - カ 活動終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。

## (2) 活動の受付時の留意事項

① 主催者は利用当日の受付時に利用者が密になる事への防止や、安全に受付を実施するために以下に配慮して受付を行うことが必要です。

ア 受付窓口には手指消毒薬を設置すること。

イ 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛けること。(場合によっては、体温計などによる検温を行い、一定の数値以上の方は入場を制限することも考えられる。)

ウ 利用者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行うこと。

エ 受付を行うスタッフには、マスクを着用させること。

オ 利用者が密な状態になるおそれがある場合は、入場制限を行うこと。

## (3) 利用者(参加者)への要求事項

### ① 体調確認

利用当日に、利用者から以下の事項を記載した書面の提出を求めることが必要です。なお、利用者が団体やイベント主催者の場合は、代表者に参加者全員の情報を取りまとめて保管してもらい、代表者の連絡先等のみ提出してもらうことが考えられます。また、その際、体温や利用前2週間の体調等については、入場の際に体温計で確認したり、口頭で確認したりする方法とすることも考えられます。

ア 氏名、年齢、住所、連絡先(電話番号)

イ 当日の体温

ウ 講習会等開催の2週間前における以下の事項の有無

I 平熱を超える発熱

II 咳(せき)、のどの痛み、だるさ(倦怠(けんたい)感)、息苦しさ(呼吸困難)など症状

III 嗅覚や味覚の異常

IV 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無

V 同居家族や身近な知人に感染が疑われる者の有無

VI 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触の有無

### ② マスクの準備等

主催者は利用者がマスクを準備しているか確認することが必要です。マスクを持っていない利用者に備え、主催者が使い捨てマスクを準備しておくといいでしょう。

### ③ 活動前後の留意事項

利用者である個人や団体が活動前後においても3つの密を避ける事、会話時にマスクを着用するなど感染対策に十分に配慮することが主催者には求められます。

#### (4) 主催者で準備する事項

新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策責任者を指名して、会場内における各施設において、関係者による下記防止対策が実行されているか確認する。

##### ① 施設における 3 つの密（密閉・密集・密接）の回避

##### ② 手洗い場所

参加者がイベント開催・実施の間に手洗いをこまめに行えるよう、以下に配慮して手洗い場所を確保する。トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることに留意する。

ア 手洗い場には石鹸（ポンプ型が望ましい）を用意する。

イ 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする。

ウ 手洗い後に手を拭くためのペーパータオル（使い捨て）を用意するが、できるだけマイタオルを持参するように促す。

エ トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう掲示する。

##### ③ 更衣室・休憩場所

感染リスクが比較的高いと考えられるため、以下に配慮して準備する。

ア 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける。

イ ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する参加者の数を制限する等の措置を講じる。

ウ 室内又はスペース内で複数の参加者が触れると考えられる場所については、こまめに消毒する。

エ 換気扇を常に回す、換気用の小窓を開ける等、換気に配慮する。

##### ④ 飲食物の提供時

基本的に飲食物の提供を避ける。もし飲食物を提供する際は、以下に配慮する。

ア 飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛ける。

イ 飲料については、ペットボトル・ビンで提供する。

ウ 飲食物を取り扱うスタッフにはマスク、手袋を着用させる。

##### ⑤ スポーツ用具の管理

主催者は、共用するスポーツ用具（鞍等）については、手が頻回に触れる箇所を工夫して最低限にした上で、こまめに消毒することが求められます。道具の消毒がこまめにできない場合は、利用者がそれに触れる前に手指を消毒してもらうなどの工夫が必要です。

##### ⑥ 観客（保護者等）の管理

こどもを対象としたふれあい活動等実施する場合には、観客（保護者等）同士が密な状態とならないよう。観客席の数を減らすなどの工夫が必要です。また、大声での声援を送らないことや会話を控えること、会話をする場合はマスクを着用すること等の留意事項を周知することが必要です。

(5) その他の留意事項

施設管理者は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、利用当日に利用者より提出を求めた書面（上記（3）1））について、保存期間（少なくとも1月以上）を定めて保存しておく必要があります。

また、利用後に利用者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合は施設の立地する自治体の衛生部局に報告を行い、適切な事後対応をすることが必要です。

以上

**参考**

スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン

（公益財団法人日本スポーツ協会 / 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会）

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン

（公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会）